

市政活動報告

文責 井手口良一（おおいた民主クラブ代表）

ご挨拶

3月議会が終わりました。昨年の3月議会で「議会基本条例」を制定し、議会の活性化の一環として、皆さんにわかり易い議論の形を模索する中、一般質問の形式が選択性になって初めて年度を越します。

まだまだ、新しい質問形式に議会そのものが慣れていませんが、一問一答方式は概ね好評を頂いています。

また、政務調査費の会計報告書がこれまでの項目ごとの合計だけでなく、全面公開されます。政務調査費については賛否の分かれるところです。議員の中にも「自由に使えない金ならいらぬ」などと公言してはばからないものもいます。

わたしなどは政務調査費がなくては議会活動そのものが出来なくなります。もちろん、貴重な税金を頂いての活動費ですから、その用途は厳正であるべきです。報告書の公開は最低限の義務と考えてきました。議員になったときから、それまでの海外での公務活動費の会計報告に準じた制度を議会内で提唱してきましたので、これでようやく正常化したと安堵しているところです。わたし達の会派は用途については厳正な基準で運用していますし、報告については税理士を外部監査人としてお願いしています。

今後ともさらに厳しい自己規制を心がけていますので、どうか皆様のご理解とご信頼をいただけますようお願いいたします。

井手口良一



一般質問に登壇（3月18日午前10時30分）

視点・論点・問題点

12月議会一般質問報告

質問1.

零歳から3歳児までの幼児教育について、教育長はどのように認識しているか？

教育長答弁

幼児期前は著しい発達が見られ、自発的な活動を通じて独立へと踏み出す家庭であり、心身の調和の取れた発達の土台が培われる時期であると認識している。

特に新生児から乳幼児の時期にかけては保護者の存在がきわめて重要であり、保護者が子育てに手応えや喜びが感じられるような教育支援の充実を図ることが重要である。

井手口の視点

子どもは生まれたその日から、心身ともに目覚ましい発育を始めます。生物学の世界では個体発生は系統発生を繰り返すという定義があります。それは

何も受胎から出生までの間の話だけでなく、出生後の数年間においても同じことが言えます。幼児期はまさに数百万年前、サルが人間へと進化する分かれ道に立ってから、今日までの進化の道を数年でたどるプロセスということができます。人間はその短い期間に数百万年の進化の道を忠実に再体験しつつ、サルから人間へと成長するわけです。その間に教育的見地からのアプローチが不要なはずがありません。

わたしはそれを「苗代教育」と呼んでいます。零歳から3歳までの間に教育的下地を身に付けた健全な苗を育ててこそ、その後の教育的環境に順応しやすく、知性と感性のバランスのとれた成長を促すことができるはずです。

質問2.

保育園事業における幼児教育について、教育委員会は保育園事業を幼児教育の担い手として認知しているか？

しているとしたら教育委員会として保育園事業に何を期待しているか？

教育長答弁

保育園は保育園保育指針に基づき保育・教育を実施する就学前教育機関と認識している。

小学校に入がする子どもの約3割が保育園出身者である現状を踏まえ、就学前教育と小学校以降の円滑な接続を図るため、幼稚園と保育園とが一層の連携を深めることが重要であると考えている。

そのため本年度には幼稚園・保育園・小学校の代表者による連携協議会を設置する。

質問3.

子どもの保育環境の社会的補完が本来の任務である保育園が実施している幼児教育について、福祉保健部長はどのように考えているか？

福祉保健部長答弁

保育園における幼児教育は子どもを零歳から預かっていると言う保育園の特性を生かして、3歳以上に教育の連動性を保育園で雨出だしていくことが重要である。

また、保育園と幼稚園とに関わらず平等な教育環

境が保障されるべきものであると考えられることから、保育園と幼稚園が相互に連携を深め、保育士と幼稚園教諭が切磋琢磨し、幼児教育の質の向上に取り組むことが重要である。

井手口の視点

一見、当たり前のことを論議しているように感じられるでしょうが、実は大分市では今回初めて保育園・園における幼児教育について、公式の場で論議されたのです。

認定こども園など幼保一元化が進む中、これまで託児所としての認識しかもたれていなかった保育園・園においても（零歳から3歳までを考えればむしろ幼稚園以上に）幼児教育の場として重要です。

今年度からまず三者協議の場を設定することが出来ましたので、これを充実させながら幼児教育の現場における幼保の連携と融和を進めていきたいと思っています。

質問4.

通知表を子ども一人一人の個別学力評価制度にするべきでは？

教育監答弁

通知表に限らず、ここの学習状況等を本人と保護者と共有し、指導に生かしていく取組を充実させることが重要である。

井手口の視点

大分市では通知表を相対評価方式から絶対評価に移行しています。そのことは自体は評価できます。しかし現在のように年3回のみ通知することだけでは、絶対評価にした目的が完遂するとは思えません。

通知表に期待される機能は子どもの習得レベルを確認しつつ、学習上の問題点を明らかにして、学習意欲を高め、学力アップを図るものです。そのためにも通知表には精度の高い個別学力評価機能が必要です。

学力評価の目的は、子どもの学習の到達レベルを正確に知ることです。さらにはその個々の学力レベルや達成度を正確に評価した結果を、保護者と本人に伝え、学習意欲を高め、「つまづき」の早期の発見と解決につなげていくことです。従って肌理の細かい3者面談とその後のフォローも重要となります。



吉野小学校での給食体験試食（この日の主菜は麻婆豆腐）

質問 5.

仮称「つまづき解決学級」を開設してはどうか？

答弁

子ども一人一人の学習上の課題を解決する個別指導の時間を設けることは重要である。

現在、各学校において個別指導や補充学習に取り組んでいる。こうした取組を推進し、長期休業中の子どもたちの学習指導の充実に努めて行きたい。

井手口の視点

新聞報道によりますと、大分県は新年度から「夏休み算数補修」という名称で県下の全ての小学校4、5年生を対象に、夏休み期間中の5日間、一日2時間、各児童が苦手分野を解消するための取り組みを行うということです。この事業は子どもたちの学習のつまづきを解消するために夏休み期間を利用しようとするもので、高く評価したいところですが、残念ながら算数一教科だけでは、その効果も限定的といわざるを得ません。

つまづきをいち早く発見し、それを個別面談で子どもに伝え、正確に認識させる必要があります。そしてそれを解消するための場こそが、この仮称「つまづき解決学級」であり、だからこそ全ての教科で実施すべきだとわたしは考えています。今後とも粘り強く実現と充実に向けて当局に働きかけていきます。

質問 6.

「おおいたモットイナイ大賞」の創設を創設してはどうか？

環境部長答弁

本旨ではこれまでも「モットイナイ」を具体化した取組を展開してきた。提言を今後の取組に繁栄していきたい。

井手口の視点

「モットイナイ」と言う言葉は今や単なる日本語ではありません。ケニアのノーベル平和賞受賞者ワンガリ・マータイ氏が提唱し、既に環境対策のための国際用語として定着しています。

大分市は新産都に指定されて以来、産業集積を進め、今日の産業クラスター都市を形成するに至っています。しかしながら一方で、1970年代には別府湾を環境汚染の代名詞にしてしまうなど、苦い経験も繰り返してきました。経済成長優先主義が大分市の今日の繁栄を可能にしたとはいえ、経済成長だけがわたしたち大分市民に幸福をもたらすものではないことを、今では誰もが知っています。20世紀の短期的、排他的で、環境破壊を伴う成長至上主義経済から、21世紀の長期的、包摂的で、環境保全型の、持続可能経済へと、この大分市も転換しなくてはなりません。これまでの経済成長の恩恵には感謝しつつも、経済至上主義には決別すべきなのです。

その一環として市の大分市地球環境保全基金に市内の個人・企業・地域の団体などより募金を募り、その基金によって毎年、国内外のもっともすぐれたリサイクルやリユース活動をしている個人・団体を表彰する「おおいたモットイナイ大賞」を創設することを提案しました。

質問 7.

大分市の行政評価の指標に国民総幸福度の考え方を導入しては？

企画部長答弁

大分市が昨年実施した市民満足度調査は既にGNHの概念に近い。新年度から「大分市総合計画・第2次基本計画」の策定に向けた準備に取り掛かる。

井手口の視点

GNH（グロス・ナショナル・ハピネス）国民総幸福感度という指標をご存知でしょうか。国の豊かさをGNP（国民総生産）や一人当たり年間所得、

つまり金銭的、物質的な豊かさではなく、国民がどれだけ幸せと感じているかによって決めようという考え方が、世界中に広がっています。それがGNHです。

もともとはブータン王国で国民に「あなたは幸せか」という問いかけをし、その肯定の割合を国の施策の成果の指標にするようになったことから始まったものです。

もちろん、幸福感は人それぞれ違います。一定の基準で幸福度を計るのではなく、人それぞれが自分の胸に手を当てて「自分は今幸せなのか」と自問することが肝要です。ちなみに2008年現在、人口約70万人、GNP34億ドル、一人当たり年間所得1800ドルのブータン王国では、国民の約90%が幸せと感じています。戦後最悪の不況下にあるとはいえ、この世界に冠たる経済大国の日本で今、同じ問いを発したら一体何パーセントの国民が幸せと答えるのでしょうか。

質問 8.

別大国道を観光資源として整備すべきでは？

商工・農政部長 答弁

別大国道は全国に誇りうる素晴らしい景観の湾岸道路であり、6車線化全線開通後はより素晴らしい観光資源になると考えている。

土木建築部、都市計画部、商工農政部の三社が協力するとともに、行政と市民の協働により、拡幅工事の整備完了に向けて、別大国道の海・山側が一体となった素晴らしい景観を最大限に活用した観光振興を図りたい。

井手口の視点

平成23年度中には別大国道の全線6車線化が完成します。別大国道が大分市の貴重な観光資源であることについては、既に衆目の一致するところではあります。

近くは白木から高崎山へかけての山々、遠くには屏風のように連なる別府アルプスの峰々と、それを背景にした別府の町の湯煙が視野から外れることはありません。海には時として百を越えるイルカの群れやってきます。

大分市が観光に力を入れようとする時、この素晴らしい風景を観光資源として活用しない手はありません。本線そのものは国道であり、大分市はその管理者ではありませんが、上白木から高崎山までの約

2.2キロの旧車線が市道に移管されます。これを地域経済振興にいかに関活用するかは、ひとえに地域に生活する者の知恵と姿勢と努力にかかっています。だからこそ大分市民がいかに関別大国道を愛し、未来に引き継ぐべき貴重な資産であるとの思いを共有するかが肝心です。

既にサクラの木の植樹など市民協働の事業が計画決定されました。市民の皆様のご協力を期待しています。

これらの質問のほかにも教育行政、環境行政、広報事業などについて質問と提案をいたしました。



両子寺で大先達（左から2人目）と満願成就の記念写真

コラム

六郷満山峰入り行

井手口良一

10年に一度と言う六郷満山の峰入りに参加し、無事満願成就いたしました。期間中、今回の峰入りの大先達をお勤めになった秋吉文隆師が住職をされている文殊仙寺が宿坊となり、京都と広島からおいでのになった説教僧おふたりに毎日の勤行についても指導を受け、素晴らしい体験をさせていただきました。

わたしが峰入りについて知ったのは小学生のころであり、当時とはとにかく仙郷と呼ぶにふさわしい国東六郷満山と天念寺の峰の無明橋の存在を、お伽話の世界と感じていました。

それが成人してキリスト教圏やイスラム圏に暮らすようになって、仏教について疑問を持つようになったのです。その疑問を解消したくて帰国後、峰入りに参加しようと思い、ようやく念願がかなったというわけです。

議員活動日誌

(1月1日～3月31日)

1月

- 5日(火) 大分市公設市場初競り式
- 8日(金) 大分市農業委員会地区審議会
大分市農業委員会全員協議会
- 14日(木) 自治基本条例検討委員会
感性教育学会月例会
- 15日(金) 大分県農業委員会合同研修会
大分市農業委員会新年互礼会
- 18日(月)～20日
議会政策研究会役員会視察
目黒区、秋田市
- 21日(木) 議会運営委員会
大分市農業委員会農政部会
- 25日(月)～26日(火)

疑問とはキリスト教やユダヤ教、イスラム教が生きている人間のための、此岸の宗教であるのに対して、日本の仏教が死者、あるいは彼岸の宗教であるのはなぜかと言うことであり、日本の仏教もまた、本来は生きてある人々のための此岸のよりどころではないのかと言うことでした。

今回の峰入りへの同行を通じて、修行僧たちとそれを支える六郷の地域の人々の姿を目の当たりにして、やはりわたしの思っていた通り、仏教もまた本来、生きてある人々のものであり、彼岸への道標でも、まして葬式屋でもないということでした。

真言密教との比較や神仏習合、あるいは逆に明治期の廃仏毀釈などを知りもせず勝手に感想は戒めるべきですが、少なくとも国東の地に遍在する仏たちを、伴侶として生きている人々がいることをわたしは誇りに感じています。

井手口良一

ここはどこでしょう (撮影者井手口)



個人政務調査視察
東京財団主催フォーラム「議会基本条例を
斬る」

28日（木）自治基本条例検討委員会第1部会

2月

1日（月）～2日（火）

会派政務調査視察
佐賀県玄海町、武雄市

3日（水）野分け会新年会

4日（木）おでかけ市長室

5日（木）議会運営委員会行政視察（静岡市）

10日（火）大分市農業委員会地区審議会
議会主催市民からのご意見拝聴会

12日（金）自治基本条例検討委員会全体会

14日（日）政務調査研修
京都環境フォーラム

16日（火）～18日（木）
会派行政視察
品川区、新潟市

25日（木）議会代表者・執行部情報交換会

26日（金）議会運営委員会
自治基本条例検討委員会第1部会

3月

1日（月）自治基本条例検討委員会第1部会

2日（火）全国大会出場チーム激励会
大分舞鶴高校テニス部

3日（水）おでかけ市長室

5日（金）平成22年第1回定例会本会議
議案考案

8日（月）議案考案

9日（火）議会運営委員会
議案考案

10日（水）議案考案
大分市農業委員会地区審議会

11日（木）議案考案

12日（金）本会議（代表質問）

15日（月）本会議（代表質問）

16日（火）本会議（代表質問）

17日（水）本会議（一般質問）

18日（木）本会議（一般質問）

19日（金）本会議（一般質問）

23日（火）総務常任委員会

24日（水）議会運営委員会
総務常任委員会

25日（木）総務常任委員会

26日（金）本会議
議員全員協議会

29日（月）大分市農業委員会年次総会



① 乙津川の沈水橋

沈水橋とは洪水などの際には水没してしまう橋のことです。増水している間は渡れませんが、水圧や流木の影響を受けにくい環境配慮型の橋と言えます。この橋も洪水が予想される時は通行止めにして、手すりを倒して、水圧や流れてくる浮遊物が引っかかってしまわないようになっています。

② 大野川のドングリ植樹（市民植樹）

一昨年が始まったドングリ夢銀行で集まったドングリを圃場で育てていましたが、昨年秋、いよいよ市民の皆さんの手で定植されました。場所は大野川の乙津川との分流点の下流の左岸です。大きく育て、堤防決壊を防いでくれるようになるのが、今から楽しみです。

③ 白木の旧10号線車線（市道に移管予定）

別大国道の6車線化は来年春には完成予定ですが、白木から高崎山までの間の旧国道敷きが市道に移管されます。ここに桜並木を作ることが決まりました。約2キロにわたっての桜並木が、今から楽しみです。

④ 鶴崎の旧肥後藩お茶屋跡（現鶴崎小学校校庭）

竜馬伝が放映されて竜馬の人气が再燃しています。その竜馬がこの地にあった肥後藩のお茶屋に、勝海舟とともに一泊していることはまだまだ知られていませんね。今、海舟と竜馬の師弟の像を建立しようと地域の方々が頑張っています。わたしも出来るだけの援護射撃をしたいと思っています。

あすなる

「あすなる」第38号 発行者 良友会 発行責任者 井手口良一 事務局・大分市府内町1-4-16 河電ビル3階303号室

電話番号 097-537-0556
FAX番号 097-533-9668

ご挨拶

「今夏の参議員選挙に向けて」

国政は政権交代後、変化による未来への希望の兆しよりも、変化による混乱と失望ばかりが報道されています。わたしは昨年民主党の地すべりの大勝利の時から「次には必ず揺り戻しがある、次の参議員選挙は民主党にとっては大変な選挙になる」と繰り返し申し上げてきました。

ただでさえ厳しくなることは必至だったのに、党首と幹事長の金権問題、普天間の迷走、マニフェスト違約などと、報道に叩かれっぱなしです。それでもわたしは鳩山首相も小沢幹事長も、今こそ踏ん張りどころであり、それぞれの立場で、それこそ死に物狂いで戦って欲しいと思っています。

歴史的な変化は歴史的であればあるほど、その評価が定まるのには十分な時間が必要です。とにかく歴史書の本を逆をめくことは出来ません。今、政治家が報道による人民裁判的な石つぶてに恐れをなしては、またもとの欺瞞と詐取の時代に逆戻りとなり、正しく後世の歴史家の笑いものになるだけです。

わたしは2月の良友会拡大幹事会に比例区の柳沢光美参議と大分選挙区の足立信也参議をお招きし、皆さんにお話を聞いていただき、わたしのこのふたりへの思いと評価を聞いていただきました。そのときにも申し上げましたが、わたしは政党人ではありませんので政党人であることでは政治家を評価しません。政治に対する姿勢、仕事振りと成果によって、そしてわたし達、地方政治家の声を如何に聞き、国政に生かしてくれるかによってのみ評価します。

わたしがこのおふたりを皆さんに改めてご紹介し、直にお話を聞いていただいた本意をお汲み取り頂ければ幸甚です。

井手口良一

連載
リレー
コラム

来年は統一地方選挙の年

都町次郎

今年の参議院選挙は政権交代後のこれからの日本を占う試金石として誰もが注目している。ただ、わたし達地方政治番の人間としては、むしろ来年の統一地方選挙へ向けた動向の方が気になるところである。

なんといっても当事者や出馬のうわさのある政治家から目を離すことは出来ないが、その周りを取り巻く関係者もまた、情報源として重要である。どんなことが合っても特落だけは、ジャーナリストとしての死活問題なのである。

今のところ県知事も大分市長も来年に向けた意思表示については、おくびにも出していない。しかしながら、県知事健康状態については憶測が飛び交っているし、彼に一朝あるときには、その次には誰が知事の椅子に一番近いか衆目は一致している。

ところが我々が井手口市議に聞いても、一般論を展開するだけで、なにやら含み笑いをしながら「僕も地方政党を立ち上げようか。豊後困民党なんてのはどうかな」なんてはぐらかされてしまう。

確かに戦後の大分県政では歴代の知事には中央官界出身者が多いし、代議士や参議、大分市長から知事になったものはいない。しかしだからこそ、市民・県民の期待はそれを打破することを望んでいるのではないだろうか。まして地方自立の時代である。中央官界とのパイプを期待しての天下り立候補ばかりに頼っていていいのだろうか。

編集者より

都町次郎は特定の個人のペンネームではありません。複数のジャーナリストによるリレーコラムのための架空の人物です。いわば月刊誌「文芸春秋」のコラムニスト赤坂太郎氏の兄弟というふうにご理解下さい。市政の裏話や歯に衣着せぬ批評をお願いしています。ご期待下さい。

活動日誌

(平成22年1月1日～3月31日)
(市議会議員の活動を除く)

1月

- 1日(木) 南太平寺杵築神社越年灯籠祭り
- 8日(金) 舞鶴高校後援会舞鶴会例会
大分市農業委員会地区審議会新年互礼会
- 9日(土) 豊府校区新年互礼会
県議ご令室通夜
- 13日(水) 協力隊を育てる会総会
野分け会月例会
- 15日(金) U I ゼンセン同盟大分県支部新年互礼会
- 16日(土) ばん友会新年互礼会
- 21日(木) 良友会事務局会議
- 22日(金) 22日会月例会
- 25日(月) 東京一七会新年互礼会
- 30日(土) 楽水会大分県支部新年会
良友会新年互礼会

2月

- 1日(日) 博愛会創立60周年記念式典
U I ゼンセン大分県支部議長送別会
- 5日(金) J I C A 専門家連絡会総会
- 6日(土) U I ゼンセン全国議員団会議
- 10日(水) U I ゼンセン大分県支部運営評議会
同 情報交換会
- 11日(木) 一七会幹事会
- 20日(土) 良友会拡大幹事会
- 21日(日) 県議後援会総会
民主党大分県連議員フォーラム
- 22日(月) 民主党大分県連議員フォーラム
22日会月例会

3月

- 3日(水) N P O 法人エバの会情報交換
野分け会月例会
- 10日(水) 農業委員会事務局長退職送別会
- 11日(木) 感性教育学会大分県支部月例会
- 17日(水) サウダージの会
- 21日(日) 歴史ロマン肥後街道ウォーキング
(野津原～鶴崎 23キロ)
- 23日(火) 議会事務局長・総務部長退職送別会

- 26日(金) 会派打ち上げ
- 27日(土) 旭化成労組ウォーキング大会
(坂ノ市～別府 30キロ)
- 28日(日) 詩誌「心象」合評会
- 30日(火) 六郷満山峰入りに一般参加(4月4日まで)



六郷満山峰入り行満願成就の翌朝、同宿の参加者と寺庭さん(中央上から二列目)とわたし(2列目左端)

会費の納入と会員拡大のお願い

良友会の活動の拡大のため、この市政報告、あすなるを多くの方に読んでいただきたいと思います。ご友人、職場のご同僚の方、ご家族などをご紹介いただければあすなるをお送りします。

もちろん新しい会員をご紹介、ご勧誘頂くことも併せてお願いいたします。どうぞよろしく。

会費 一般会員 (年間・1口) 1,000円

賛助会員 (年間・1口) 10,000円

良友会名義の口座番号

大分銀行 上野支店 「いでぐち良一後援会」良友会 5036576

豊和銀行 上野支店 「いでぐち良一後援会」良友会 1035694

郵便局 「いでぐち良一後援会」良友会 17290-12491381

編集後記

ひと月遅れの議会報告と会報になりました。申し訳ありませんでした。

春先から不順つづきだった天候もようやく正常になりそうですが、農家も大変、消費者も大変でした。一日も早く、農業生産が正常化して欲しいものです。(I)